

石破首相 辞意

総裁選前倒し要求拡大

政権運営立ちゆかず

石破茂首相（自民党総裁）は7日、辞任の意向を固めた。複数の政権幹部が明らかにした。参院選大敗を受け、閣内を含む党所属国会議員や地方組織に総裁選前倒し要求が広がり、政権運営が立ちゆかないと判断した。自民は早期に総裁選を実施し、後任選出を急ぐ。首相は7日午後6時から官邸で記者会見し、辞任を正式表明する方向だ。

首相は7月の参院選大敗直後「政治空白をつくるべきではない」と続投を表明。7月28日の両院議員懇談会と8月8日の両院議員総

会で、日米関税交渉合意の実行を理由に続投方針を堅持した。

アフリカ開発会議（TICAD）や、韓国大統領の来日など外交日程にも取り組み、9月2日の両院総会でも当面の続投意向を表明していた。

一方、自民は総裁選前倒しの是非を判断するため党内手続きに着手。8日に前倒しを求める党所属国会議員から書面の提出を受け、都道府県連の要求と合わせて結果を公表する予定にしていた。

閣僚経験者や副大臣、政務官から前倒し要求が相次ぎ、臨時総裁選の実施に必要な過半数に達するとの見方も出ていた。首相経験者の麻生太郎最高顧問や、石破内閣の鈴木馨祐法相も前倒しに賛成すると表明した。

「ポスト石破」候補には、去年の総裁選で首相と決選投票を争った高市早苗前経済安全保障担当相や小泉進次郎農相、小林鷹之元経済安保相、林芳正官房長官らの名前が取り沙汰されている。



石破 茂首相